



今回は、新たに導入された X 線動態撮影、装置名：KINOSIS (KONICA MINOLTA) について紹介させていただきます。

【X 線動態撮影とは】

既存の一般撮影装置を用いて 20 秒間連続撮影をすることで、呼吸している時の肺の動きを観察する事が出来ます。肺の X 線透過濃度の変化、呼吸をするための横隔膜の動きの変化を専用の解析装置を用いて下記の解析が可能となります。検査時間は呼吸の練習を含めて約 10 分程度となります。

【解析処理】

肺血流、肺の動きの低下領域・癒着の有無、肺野面積などが解析できます。

1. 肺血流

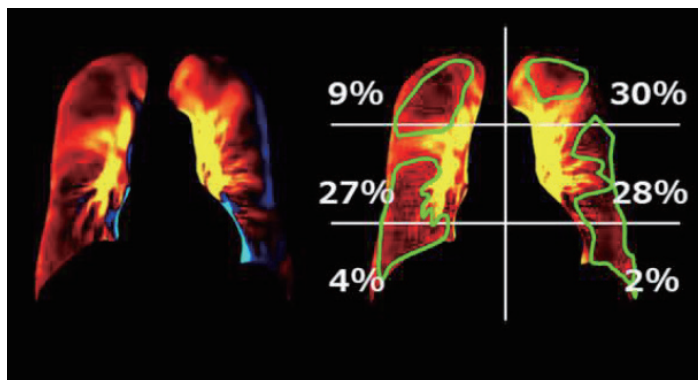
信号値変化を解析することで、血流低下部位を可視化できるようになり、他検査と併用することで肺血栓症などの診断に役立ちます。(図1)

2. 肺の動きの低下領域・癒着

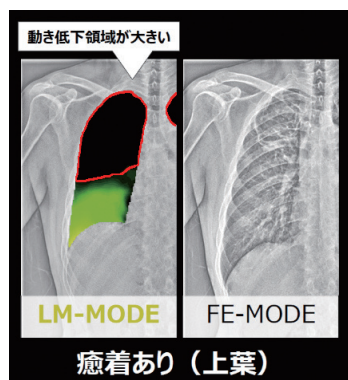
呼吸運動の解析から癒着の有無と程度の評価ができるため、手術時間の短縮などが期待できます。(図2)

3. 肺野面積

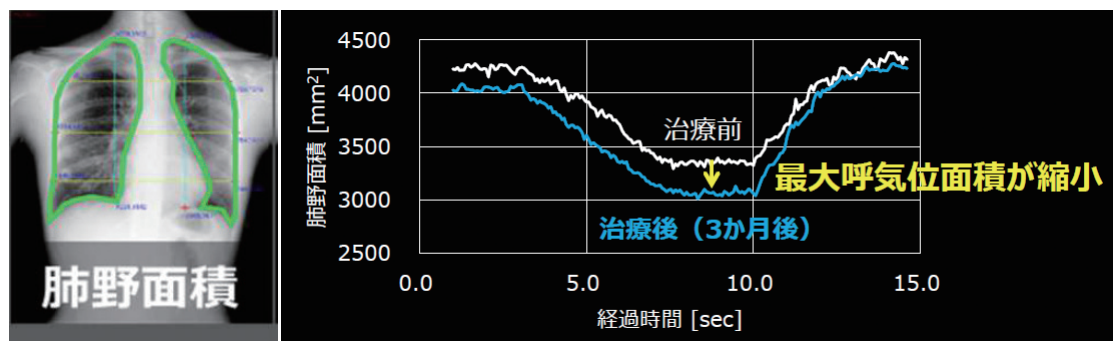
肺野面積の比較から、呼吸機能の改善・悪化を定量評価できます。(図3)



(図1) 肺血流低下部位の解析画像



(図2) 癒着部位は赤丸



(図3) 肺野面積の解析から治療前・後の比較

提供：© KONICA MINOLTA